

ドライ工法研磨材

中高配筋向け開発

高速道路や床版に的

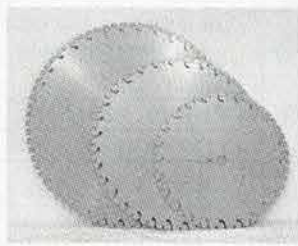
サンゴバン

サンゴバンは、水不使用のドライ工法で用いることのできる土木・建材用研磨材について、中々高配筋の構造物まで対応可能な新製品を開発した。鉄筋量の多い構造物や道路を、乾式工法でありながら効率的に解体できるダイヤモンド工具を求めた声が高まっており、工具に含まれる金属粉とバインダーの配合の工夫などにより最適な設計を実現した。研磨材の中でも、チューニングが比較的容易なコアビッドについては個別改良で対応してきたが、新たに道路カッター用のブレードも中々高配筋対応製品を上市し、高速道路や橋の床版などをターゲットとして展開を開始した。ワイヤーソー、ウォールソーについても開発を進め、幅広い案件への対応力を備えていく。

サンゴバンが開発した 対応するダイヤモンド工 機能の強化などで鉄筋量のは、構造物の中でも比 具の新製品。建物や構造 が増加し、高強度のコンクリートが使われるとい 較的鉄筋量の多い物件に 物は新しくなるほど耐震 クリートをかわれるとい

サンゴバンは、水不使用のドライ工法で用いることのできる土木・建材用研磨材につ

った解体作業の難しい物件が増える傾向がある。一方、古い建物でもコンクリートの骨材として高硬度の玉石などが含まれ



道路カッター用中高配筋用ブレード

るケースがある。水を用いる湿式工法は環境配慮などの観点から採用が難しいケースが増えており、サンゴバンの日本法人が独自開発したドライ工法の工具に関心が集まっている。

これまで同社が開発してきたのは主として市場規模の大きな中々低配筋の案件で、性能と対応力が評価されて着実に実績を広げている。しかし認知度が高まるなかで、高配筋物件への対応も強く

求められるようになり、なかには湿式でも困難がつきまとうようなケースもあるという。すでに個別のチューニングが比較的容易な穿孔用のコアビットについては中々高配筋物件への対応を始めており、新たにカッター車

に取り付けて切断する道路カッターやフロアカッター用のブレードについても対応製品を開発し提案を開始した。ワイヤー状で壁など大断面向けのワイヤーソーでも開発品で市場テストを進めており、切断部の精度を要求

される部位に用いるウォールソーも開発中。同社は4年後には土建分野におけるドライ工法比率が現状の3倍程度となる15%に高まるとみており、今回の新製品もその市場要請に応える武器として提案を強化していく。

化学工業日報2021年4月13日号

